期待される障害者自立支援協議会

障害者自立支援協議会とは、障害者自立支援法の中で障害のある人が障害のない人と共に暮らせる地域をつくるため、障害福祉に係る関係機関が情報を共有し、地域の課題解決に向け協議を行うための会議である。現在、三島市ではその開設に向けた準備が進められている。

主体は三島市

三島市が主体となって設置する障害者自立支援協議会の設立準備会は、昨年十二月に行政、事業者、市民等約百人が集まり第一回が開かれ、グループワーク形式で一月に第二回、二月一七日に第三回が行われる。

障害者自立支援協議会は障害者自立支援法に基づき自治体が行う相談援助業務に係るものだが、東部地区ではすでに沼津市ほか各地で設立。三島、裾野、伊豆の国、清水町、長泉町、函南町の三市三町がまだで三島市は今年度中に立ち上げる予定だが、単独でやるのか、他市町と合同でやるのかを含めて目下検討中ということだ。

障害者通所施設　市立佐野学園(三島市青木)

望まれる相談支援

「障害者の数だけ個性がある」と言われるように、障害を持つ人のニーズは人それぞれ。声かけ・見守りだけが必要な人もあれば、常時身体介助が欠かせない人もある。一人の人がいろんな場所で複数のサービス提供を受ける場合も多い。例えば、昼間は通所施設に通っているが、休日は移動支援を利用して映画を見に行く。入所施設のショートステイ宿泊をし、自宅でホームヘルプサービスを利用しているような人への対応の仕方が、サービス提供者によってばらばらだと困る。衣服の着方一つでも同じやり方をして貰わないと人によっては大混乱になることがある。そんなとき、困っていることを気軽に相談できる第三者的な相談員がいて、当事者とともに解決策を考え、各提供者が連携して支援できるように図ってくれる仕組みがあれば本当に有難い。介護保険でのケアプラン、ケアマネージャーのような個別支援の体制が障害者支援でも必死に望まれているのだ。

長野県の先進例

長野県では07年から、「相談者の中立性、公平性確保の観点から相談支援事業の運営、評価等実施」具体的な困難事例への対応のあり方について指導・助言」を掲げた地域自立支援協議会のもと地域ネットワークが構築され、地域支援相談員を中心に当事者、行政機関、保健師、家庭相談員、保育士、児童相談所、医療機関、学校、社会福祉協議会、職業センターなどのワーカーがスクラムを組み、障害を持つ人の誕生から成人までのライフステージを支援していく体制の実現をはかっている。当事者、家族が孤立して苦労するのはすっかり過去の話になろうとしているのだ。

実りある協議会を

行政主導の協議会というと、当て職を並べたアリバイ工作かと思いたくなるようなものもあるが、今回の協議会には市も一定のビジョンをもって臨んでいると聞く。他所より遅れた分だけ他所より進んだ協議会が立ち上がって、障害を持つ人や家族が安心してずっと住み続けたいと思うような三島市を創る第一歩となってほしいものだ。

（初音台　高月）

― みつめる ―

死刑執行四ヶ月なく年明くる午前三時の月皓々

この日ごろメディアは横に列つくりラブコールしきり帝国アメリカ

革命を知らざる国の六十年オキナワ常に疎外者であり

知らされぬこと多くあり日が過ぎる「沖縄密約・仮想敵国」

いつのまに仮想敵国作られて攻撃用ヘリを持つ国となる

二万発の核を静かにひそませて凍れるパリと告ぐる朝なり

浅野　和子

原発はいらない⑭ 超危険なプルサーマル その2

みしま原発を学ぶ会

原発の歴史は原爆開発から始まる。生物の命や建物などの破壊目的から、スタートしている。アフガン戦争等で使用された「劣化ウラン弾」も原発の核燃料を作るために天然ウランを濃縮するときに出来るウラン238という濃縮カスだ。原発はその特異な歴史から産業主導型ではなく、現在も国家、政治主導で、進められている。

プルサーマル(1グラムで50万人を肺癌にすることができると言われる猛毒放射能プルトニウムをウランと混合してモックス燃料を作り、一般の原発で燃やすこと)も一電力会社の単なる利益のためではなく、国家プロジェクトとして計画されている。日本のプルトニウム保有量は核兵器5500発分あり国際的にも在庫を減らすことが厳しく要求されてり、資源の有効利用という名目でプルトニウムを燃やすプルサーマルが日本の原発で16～18カ所予定されている。(残念ながら10月に玄海原発3号でプルサーマルが開始され、浜岡原発も今年予定されている)

本当に資源の有効利用、リサイクルになるのか？原発の燃料はウランを数パーセント燃やし使い終わり、燃え残りを使うには、再処理を行い新たなウランを加え、燃料を作り直す。そのとき厄介な高レベル放射性廃棄物等が普通の原発より150倍強出る。作り直すほど品質が悪くなり、ウラン利用率は1パーセントを切る。現実には繰り返し利用することなどとてもできない、まやかしのリサイクルだ。

モックス燃料を使用することにより、燃料棒が破損しやすくなる、原発の制御棒(ブレーキ)の効きを低下させる等原発の危険が増大する。(しかも日本のモックス燃料はプルトニウムの含有率が海外と較べても格段に高い-フランス7・08パーセント、日本13パーセント)東海大地震が発生したら、地球規模での放射能汚染となることは避けられないだろう。科学や技術というものは人や生き物が幸せになるために有るはずだ。原発は生命を大規模に破壊することがわかったのだから、さあ、撤退する勇気を持とう。原発震災は防ぐことができる。

交差点

私たちにも言わせて！

給食完全米飯化

私は、基本的には米飯給食に賛成です。でも、こういう大切な問題(だと少なくとも私は思うのですが)を現場や保護者の意見も聞かずに決定するという過程には、首を傾けます。それに、最終的には和食給食になるという話を聞きましたが、あまり極端な事はやめて下さい。カレーだって、洋食とはいえ市民権を得ています。うちの子は勉強が嫌いですが、バラエティーに富んだ給食を楽しみに通っています。

学校から二度にわたり頂いたプリントは、全く寝耳に水で、納得いきません。何度読み返しても、洗脳されている気がします。ご機嫌取りのような「お楽しみ給食」なるものも、ポリシーの無さを感じます。

私は栄養士という職業柄、米飯給食が良いということはとてもよくわかります。ただ、これだけ洋食が当たり前になった現代では、米飯と他食のバランスを取っていくことこそ大切ではないでしょうか。今年度くらいのバランスが、米飯も多くなり丁度良いのではないかと思います。また、野菜や肉だけでなく、米も地産地消をお願いします。現在給食の米は県から支給されており、正直素性が分からないのが現状です。また、パン食の時に全粒粉を使用した様に玄米を使用する事もあるかと思いますが、その場合是非、無農薬の玄米をお願いします。農薬は米の外側に溜まるからです。全粒粉パンが農薬だらけだった過ちを繰り返さないよう、メニューの工夫だけでなく食材の安全を確保してこそ、本当の食育ではないでしょうか。

配られたプリントを見て、市の方針転換にポリシーの無さを感じました。だって、ほんの数年前に広報で大々的に宣伝されていた「食の国際交流」は、どこに消えちゃったんでしょう。流行りに飛びついて簡単に方向転換したしわ寄せは、今まで苦労してメニューや作り方を工夫してきて下さった栄養士さんや調理師さんに行く訳ですよね。教職員組合やパン業者さんからも猛反対があったのを、ごり押ししたと聞きました。そこまでする理由は何ですか。誰かが美味しい思いをするのかしら。市政にも「政治とカネ」はつきものですか。

〈やかまし母さんズ〉

ある野戦重砲兵の物語⑦

秋元　実

三島野重第三連隊には、中国大陸に出征した戦歴がありました。

満州事変・上海事変の後、例の盧溝橋事件から本格的に「日中戦争」が始まったのは、昭和十二年七月でしたが、その直後の八月、野重三に動員令が下り、旧式の四年式十五榴二十四門を軍馬に曳かせた連隊は、以来十四年一月に復員凱旋するまで、中国北部を転戦の後、南に運ばれてバイアス湾に上陸、広東の警備に当たり、人馬とも、およそ一年半の苦渋の野戦を経験したのでありました。

わたしが入営したとき、その野重三は、今度は厄介な軍馬ではなく、軽油の燃料で動くキャタピラ付きの六トン牽引車に、新式の九六式十五榴(口径十五センチの榴弾砲)を曳かせて戦う機械化砲兵でした。

そして、わたしは、三か月の訓練の後、遠いビルマに作戦中の本隊に送られて、以後終戦まで三年近く、重量が五トンもあるこの火砲とつきあうことになるのでありました。一泊二日の外泊を許され、家族とあわただしい別れをしてきた出征兵六十名は、四月二十八日の朝、寺本・東(あずま)・長谷川という三人の若い見習士官に率いられ、隊列を組んで衛門を出て、東海道線の三島駅に向かいました。

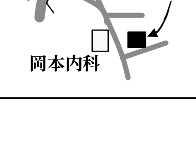
三島駅には、出征者の親族たちが大勢見送りに来ておりました、わたしの両親や親戚などもいて、暫く、別れを惜しみました。やがて、軍用列車が来て、わたしたちを収容しました。三島市民の見送りも、歌も万歳も、どよめきも愁嘆場もなく。静かに発車して、列車は西へ走りました。

富士山や愛鷹山、浮島が原、遠い伊豆半島の山々など、かつてわたしが愛した、そしてもう二度と会えないかも知れない、ふるさとの風景のすべてが、南方行きの戦友たちと、車窓に身を寄せたわたしの視界から、一つ一つ消えていきました。

次の日の午後、広島へ着いたわたしたちは、宇品の港へ何キロも歩き、そこに停泊している一隻の大きな貨物船を見ました。それが、動員の将兵をときに二千人も南方へ運ぶ七千一百トンの高速輸送船、能登丸でありました。

（つづく）

＜蕎麦処＞
いな穂
三島市谷田中島 70-8 押切り入口)
「箱根水系押切りそば」
そば定食　６００円
かけざる　４００円
主人：古瀬　喜久男
電話：080-3075-8381



基地沖縄と日本 憲法
元沖縄知事・元衆院議員　太田昌秀氏の怒り
老朽化した普天間基地の代わりに
最新鋭の辺野古基地建設計画
日時：2月16日(火)午後6時45分
会場 本町タワービル　4F 会議室
輪読・討論　米軍再編と沖縄・辺野古そして憲法
入場無料　参加者フリートーク　第４７回
みしま憲法９条の会
みしま中部憲法９条を守る会
三島市民講座
三島・田方憲法９条を守る会
連絡先　975-2855 加土井
973-1189 栗原
971-3348 山口
977-2016 木内

楽々パソコン教室のご案内
毎週水曜日　夜
生涯学習センター
５F（パソコン教室）
午後7時～8時半
月4千円、1回1000円
【個別指導対応】
ワード、エクセル、デジカメ、
画像処理、ホームページ作成等
連絡先：055-986-1301（勝俣）

三島児童文学を語る会　368回
2月例会のお知らせ
日時：月27日(土)
13時30分～16時30分
場所：本町タワー4F 第3研修室
テキスト：「おとぎ芝居」
小出正吾作
(小出正吾全集③巻 P135)
今こそ「読み聞かせ」が大事！
事務局　小嶋利信　堀川尚子　山口当子
連絡先　三島市中央町８－８
TEL　971-3348(山口)

平家物語を読む会
とき：毎月第1, 2, 3金曜日
午前10時～12時
ところ：沼津駅前パレット集会室
テキスト：岩波文庫「平家物語」
会費　月3000円
問い合わせ　055-972-4953
こくごビレッジ(高月)
☆見学自由　お気軽にご参加下さい。